

学校関係者評価委員会資料 (R3. 2. 25)

Ⅲ 評価項目及び取り組み状況					Ⅴ 今後取り組む課題	
評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)						
	評価項目	評価	委員会評価	取り組み状況	課題と具体的な取り組み方法	
幼稚園	1 教育課程・指導計画の見直しを図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 本園の教育課程と指導計画が、新教育要領の内容とつながるものになっているかという事を意識しながら、月に1度指導計画作成時に話し合いの時間を持つことができました。 子どもたちの育ちが、教育目標や教育課程につながる育ちになっているかを意識しての話し合いが足りなかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> どの時期に、どのようなねらいをもって、どのような指導を行っていくかという全体の見直しを持って保育を行えるよう、新年度のスタート時や学期ごとに、教育課程について話し合う時間をもつようにしていきたいと思います。 実際の子どもの育ちが、教育目標や教育課程につながる姿になっているかを意識しながら保育を行っていきけるようにしたいと思います。 	
	2 子どもが遊び込める環境について、園内研修で学ぶ。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究保育については、外部から先生をお招きして勉強をする機会が1度しか持てませんでした。事例研究については年齢別にテーマに近い事例を持ち寄り、子どもの思い、遊びこめるための環境や教師の援助についての話し合いを深めました。 	<ul style="list-style-type: none"> 3歳、4歳、5歳それぞれの遊びこむ姿、そこに必要な環境、教師の援助や役割についてを更に明確にし、令和3年度研究紀要としてまとめていけるよう園内研修を進めていきたいと思っています。 	
	3 事故やケガのない生活を意識した安全教育を充実させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウィルスや自然災害等から、自分の命を守ることの大切さを学ぶ1年でした。ケガは6件ありましたが、手洗い、うがい、消毒等の衛生面への意識の高まりから病欠の少ない1年でした。 	<ul style="list-style-type: none"> この一年で、あたりまえの生活習慣の大切さを実感することができました。生活一つひとつを丁寧に行っていくことで健康や安全への意識を更に高めていけるようにしたいと思います。 	
とことこ組	1 遊びの姿を記録から考察し、2歳児の理解に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊ぶ姿や発する言葉を記録することで、一人ひとりの発達や興味に添った援助を考えていくことができた。また、その日の子どもの姿を保育者間で話し合い、共通理解のもと次へつながる遊びや環境を考えていくようにした。 子どもたちの「こうしたい」という声を大切に、主体的に遊べる環境や自らやってみたくていう意欲がもてるよう、援助の仕方を考えていくようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や興味に合わせ、既製遊具の設置方法や出し方、時期を見直し、指導計画の月案⇒週案を一人ひとりの発達を考慮しながら作成し、保育実践から振り返りをくり返し、保育環境や援助のあり方を考えていくようにする。 	
	2 個々の発達状況を理解し、安心・安全な環境構成を考えていく。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがつながりあって遊び出すと、楽しくなってテンションも上がり、危険な場面も増えることを考慮し、その遊びを尊重しながら遊びにルール・決まりを提案し、危険を回避し楽しく遊べるよう援助していった。 発達に合わせた援助や、見守り方の工夫をすることで、「できた」という経験を重ね、自信につなげていけるようにした。 受容的・応答的な保育を心がけ、子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が自分らしさを発揮して周囲の環境にかかわっていきけるよう努めていった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安定して遊びだせるよう、安心・安全に過ごせる場所や環境づくりに配慮し、子どもの気持ちや心の声を読み取って、子どもたちが主体的に遊び出せるように考えていく。 	
なかよし保育	1 安心して自分らしい動きや自分のやりたいことに取り組めるような環境を整える。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 施設の都合で長期休みが中心となってしまうが、異年齢で過ごす経験を意図的に計画し、小さい組への思いやりの気持ちや年長組からの刺激を受けられるようにしながら楽しい交流の時間を持てるようにした。 月1回ではあるが担当保育者での話し合いを持ちながら幼稚園との連携にも努め、一人ひとりに寄り添ったかかわりを心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間一緒に過ごしている子どもたちのつながりをより大切にしながら幼稚園の経験がなかよしルームの経験につながるよう、また、なかよしルームの経験が幼稚園でも活かされるようさらに連携を深めていく。 	
	2 一人一人が快適で、かつ健康で安全に過ごせるよう、家庭との連携を十分に図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な場となっているかを常に意識しながら保育にあたってきた。朝の受け入れ等忙しい時間帯での保護者対応など学校評価で指摘を受けたところもあるので心配りを忘れず丁寧に対応していくことを意識していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への対応の部分では丁寧な心配りと共にこどもの様子が具体的にわかるようなお知らせやお便りの充実に努めていく。 	
Ⅳ 学校評価の具体的な目標の総合評価				Ⅵ 学校関係者評価委員会の評価		
評価	理由					
B	<p>【幼稚園】</p> <p>令和3年度の公開保育に向けて、一昨年から「遊びこめる子」をテーマに掲げ、今年度も年齢ごとの遊びこむ姿、環境や援助についてみんなで学ぶことができました。事例で見えてきている遊びこむ姿、年齢に応じた遊びこむために必要な環境、教師の援助や役割について、次年度は明確にできたらよいと思っています。</p> <p>【とことこ組】</p> <p>それぞれ自分のやりたい遊びを見つけて、主体的に遊び出せるよう配慮してきた。友だち同士つながりあって遊ぶ姿を見守り、必要なときは援助しながら、楽しさや面白さを共有していくようにした。</p>			<p>1、幼稚園</p> <p>【評価項目1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回同様、新しい変化（教育要領改訂）に対応させた教育計画への意欲的な取り組みが見られる。教育要領、教育課程にアプローチする取り組みは高く評価できるものである。 「取り組み状況」および「課題と具体的な取り組み」において“教育目標や教育課程につながる”との表記があるが、そのためにどのような改善が必要なのかを考える必要がある。（ただし、相当難しい話でもあるので、園内研修を進めるにあたってはそれを視野に入れた取り組みが必要であろう。） <p>【評価項目2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「遊びこむ」この意味について周知が図られた。一方で「遊びこみ」について、保育者が思うことと、子どもが思うことが果たして一致するものなのかという指摘がある。園内研修等で念入りに見ていくことが必要であり、それがなされている。 *評価項目1及び2は輻輳された状態である。例えば「教育課程・指導計画の改善、及びそれに伴う研修の状況に関する項目」「保育実践に関する項目」とした方が評価の観点で明確になると考えられる。 <p>【評価項目3】</p> <p>自己評価Bであることの根拠は「ケガ6件」ということであったが、相対的にこの件数は多いのか少ないのかという客観的な見地も必要ではないか。</p>		
委員会評価				<p>2、とことこ組</p> <p>【評価項目1】課題と具体的な取り組み方法に記載されている「既製遊具」の「既製」は必要ないのではないか。</p> <p>*幼稚園同様1、2の評価項目をより明確にする必要がある。</p>		
A	<p>【なかよし保育】</p> <p>なかよしルームの子ども一人一人の健康やその時の心情に寄り添いながら丁寧なかかわりをするのができた。幼稚園の遊びの経験を継続したり新たな刺激となる遊びの提案をしながら環境構成などにも配慮してきた。</p>			<p>3、なかよし保育</p> <p>【評価項目1】及び【評価項目2】の自己評価がBである根拠について、「朝の受け入れ」の対応が不十分であるという報告があった。（この件に関して保護者アンケートから同様の傾向があった）</p> <p>およそ60名の利用に対して3～4名の職員加配の妥当性について検討の余地がある。また全園児の30%に近い利用状況は保護者のニーズの高まりを裏付けるものであり、今後の園児募集に関しても影響されるものであると考えられるので、そのことも含めた対応検討が望まれる。</p>		
<p>総評</p> <p>委員全体で「遊ぶこと」の意味を共有することができた。「子供の遊び込み」を軸に、十分な取り組みがなされており、幼稚園、とことこ組、なかよし保育、それぞれの機能を生かしながら、連続性も意識した保育を行うよう努力されていることは高く評価できるものである。</p>						